

## 1 音楽科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

### (1) 学習指導の課題と留意点

- ① 学習指導要領の基本的な特徴
  - ・ 指導のねらいや手だてを明確にし、子どもが感性を高め、思考・判断し、表現する一連の過程を重視する。
- ② 指導内容
  - ・ 全ての子どもが学習する内容を確実に押さえた学習指導を行うことが重要である。
- ③ 思考力・判断力・表現力の育成
  - ・ [共通事項]の学習を支えとして、音楽表現を工夫し、必要な技能を身に付け、どのように表すかについて思いや意図を持つ過程を大切にする。このことが表現領域において思考力・判断力・表現力を育む学習指導のポイントである。
  - ・ [共通事項]の学習を支えとして、音楽を解釈したり価値を考えたりする過程を大切にする。このことが、鑑賞領域において思考力・判断力・表現力を育む学習指導のポイントである。
- ④ [共通事項]
  - ・ 感性を豊かにし美的情操を養う視点から、表現と鑑賞のいずれにおいても『音楽的な感受』を大切にして、美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取ることでできる力の育成が求められる。この『音楽的な感受』に相当する指導内容が[共通事項]アであり、「音楽を形づくっている要素を知覚する」ことと「それらの働きが生み出す雰囲気などを感じ取る」ことから成る。また、[共通事項]イの指導内容である「音楽に関する用語や記号などを理解する」学習は、それのみを単独で行うのではなく、『音楽的な感受』と一体的に行うことによって、子どもが実感を伴って理解できるようにすることが大切である。
  - ・ 全ての子どもにとって学習の対象となる音楽を形づくっている要素は何かを明らかにしておき、実際の学習指導では、子ども自らがそれらの要素に気付くようにする。
- ⑤ 創作と鑑賞の指導
  - ・ 創作では「音を素材として、音楽をどのように形づくっていくか」を直接体験することによって、また鑑賞では「音を素材として、音楽の全体や各部分がどのように形づくられているか」を考えることによって、音楽の構造を理解したり雰囲気や表情を感じ取ったりする力などを高めることができる。このような創作と鑑賞の学習を質的に充実することは、音楽教育の重要な実践課題である。
  - ・ 創作活動では、子どもが即興的に音を出して、音や音楽の質感を感じ取りながらいろいろと試し、どのように音を組み合わせるかなどを自ら決めることができるようにする必要がある。学習に当たっては、「つくるための手掛かりとなる条件を適切に設定して示す」ことと「子どもの自由な発想を大切にする」ことの両者のバランスを図ることが大切である。
  - ・ 鑑賞の学習指導に当たっては、学習の対象となる音楽について、自分はどのように感じ取ったのか、その理由としての音楽的な特徴は何か、そして、自分にとってどのような価値があるのかなどを、思考・判断・表現し、主体的・創造的に味わって聴くことができるようにすることが重要である。批評する活動においては、子どもの好き・嫌いを述べるのではなく、学習の対象となる音楽について、多くの人たちが普遍的に認めているようなよさや特徴などを学ぶことを大切にする。
- ⑥ 我が国や郷土の伝統音楽の指導
  - ・ 地域や学校、子どもの実態を考慮しつつ、表現と鑑賞の両領域において我が国や郷土の伝統音楽の学習を充実することが重要である。
  - ・ 歌唱イの事項の学習は、対象とする音楽について、本来の持ち味がよりの確に表現できるように創意工夫して歌うことが重要であり、何通りもの発声の方法を身に付けることがねらいではないことに留意する必要がある。

⑦ 言語活動を取り入れた指導

- ・ 音楽の表現や鑑賞学習を充実するために、言語活動を適切に位置付けることが重要である。
- ・ 音楽の表情や雰囲気などと、その質感を生み出している音楽的な特徴を関連付けて、音楽に関する用語などを適切に用いて言葉で表すことができるようにすることが重要である。

(2) 学習評価の見直しのポイント

① 評価の観点

- ・ 表現領域の学習状況について「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「音楽表現の技能」の3観点で、鑑賞領域の学習状況について「音楽への関心・意欲・態度」、「鑑賞の能力」の2観点で評価する。

② 各観点の特徴

- ・ 「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」は、観点「思考・判断・表現」に相当する。
- ・ 「音楽表現の創意工夫」は、『音楽的な感受』に基づきながら音楽表現を工夫し、どのように音楽で表すかについて思いや意図を持っている状況の評価する。
- ・ 「鑑賞の能力」は『音楽的な感受』に基づきながら解釈したり価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている状況の評価する。
- ・ 「音楽表現の技能」は、学習の展開等に応じて「音楽表現の創意工夫」に係る力の育成と関わらせながら、音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している状況の評価する。

③ 思考・判断・表現に係る評価規準の設定

- ・ 「音楽表現の創意工夫」の評価規準は、観点の趣旨に沿って「～を知覚し、～を感受しながら、～表現を工夫し、どのように～かについて思いや意図を持っている」のように設定する。「鑑賞の能力」の評価規準は、同様に「～を知覚し、～を感受しながら、～解釈したり価値を考えたりして、～のよさや美しさを味わって聴いている」のように設定する。その際、「～」の部分には、題材における目標、指導内容、教材の特徴、学習活動などにふさわしい文言を入れる。『音楽的な感受』に当たる「～を知覚し、～を感受し」は両方の観点に共通する。

④ 評価場面等の精選

- ・ 子どもの状況を常に把握して工夫のある指導を十分に行う中で、評価を行う場面等を精選することが重要である。

(3) 指導計画の作成のポイント

① 題材の指導計画

- ・ 指導のねらいを明確にし、計画全体の整合性・一貫性を確保する。

② 題材構成のタイプ

- a：特定の領域・分野のみで構成する題材
- b：表現領域における複数の分野で構成する題材
- c：表現領域と鑑賞領域を関連付けて構成する題材

以上の三つのタイプが考えられる。

- ・ b、cのタイプについては、〔共通事項〕を複数の領域・分野の指導事項の学習を共通に支えるものとして位置付けるようにする。そこで、題材の学習全体を貫いて、共通に取り扱う音楽を形づくっている要素を明らかにしておくことが重要である。

③ 題材構成における鑑賞の質的充実

- ・ cのタイプについては、〔共通事項〕を要として表現と鑑賞の関連を図るとともに、鑑賞の学習の質的な充実を図ることが大切である。

④ 年間指導計画

- ・ 各題材で育成する力を明確にし、題材同士の関連性や発展性などを考慮して、「② 題材構成のタイプ」で述べた三つのタイプの題材を適切に配列することが大切である。
- ・ 年間指導計画と題材ごとの指導計画を一体的に検討しながら作成することが重要である。

「参考資料：中等教育資料4～7月号」